

共同企画 | 第40回医療情報学連合大会（第21回日本医療情報学会学術大会） | 共同企画

共同企画5

情報活用；データ駆動型(Data Driven)医療経営への展開

2020年11月19日(木) 14:00 ~ 16:00 G会場 (イベントホール・特設会場2)

[2-G-2] 情報活用；データ駆動型(Data Driven)医療経営への展開

*宮原 勅治^{1,2,3}、宮本 和欣⁴、藤森 研司⁵、石川 ベンジャミン光一⁶、小塩 誠⁷、杉原 博司⁸（1. 川崎医療福祉大学医療福祉経営学科, 2. 川崎医科大学医療資料学教室, 3. 日本医業経営コンサルタント協会情報活用専門分科会, 4. (公益社団法人) 日本医業経営コンサルタント協会, 5. 東北大学医学系研究科医療管理学分野, 6. 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部, 7. 宮崎市郡医師会病院, 8. 医療法人林病院）

*^{1,2,3}, ??? Miyamoto⁴, Kenji Fujimori⁵, Koichi Benjamin Ishikawa⁶, Makoto Kojio⁷, Hiroshi Sugihara⁸（1. 川崎医療福祉大学医療福祉経営学科, 2. 川崎医科大学医療資料学教室, 3. 日本医業経営コンサルタント協会情報活用専門分科会, 4. (公益社団法人) 日本医業経営コンサルタント協会, 5. 東北大学医学系研究科医療管理学分野, 6. 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部, 7. 宮崎市郡医師会病院, 8. 医療法人林病院）

キーワード：data-driven, healthcare management, NDB, SCR

医療情報学会においても、データの2次利用、情報活用と言われて久しい。その間、DPCデータ、NDB、病床機能報告、介護データベースなど、大量のオープンデータも提供・蓄積されてきた。こうした大量の院内外のデータを活用した「データ駆動型（Data Driven）医療経営」がこれからの病院経営の中心的手法になっていくことは間違いない。今回は、現場で医療経営を担う公益社団法人）日本医業経営コンサルタント協会の情報活用専門委員会との共同企画を計画した。病院経営の現場での実践的かつ具体的な情報活用法を提示しながら、医療情報と医療経営に携わる両者の視点から、データドリブンな「医療経営」についての議論を展開したい。各シンポジストには、

藤森研司：NDBから見るSCRデータを活用した自院の外部環境分析

石川ベンジャミン光一：人口・患者推計データを活用した外部環境分析

小塩 誠：病院経営における戦略的データ活用法

杉原博司：院内データを用いた地域包括ケア病棟のアウトカム評価

宮原勅治：病院財務諸表オープンデータの予測分析から得られたインサイトの利用の内容で、病院の外部・内部両方の分析から話題提供をしてもらう予定である。

情報活用;データ駆動型(Data Driven)医療経営への展開

宮原勅治^{*1,2,3}、宮本和欣^{*4}、藤森 研司^{*5}、石川ベンジャミン光一^{*6}、小塩 誠^{*7}、杉原 博司^{*8}

*1 川崎医療福祉大学医療福祉経営学科、

*2 川崎医科大学医療資料学教室、

*3(公益社団法人) 日本医業経営コンサルタント協会

*4 東北大学医学系研究科医療管理学分野、

*5 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部、

*6 宮崎市郡医師会病院、

*7 医療法人林病院

Utilizing Information; Development into Data-driven Healthcare Service Management

Tokiharu Miyahara^{*1,2,3}, Kazuki Miyamoto^{*4}, Kenji Fujimori^{*5}, Koichi Benjamin Ishikawa^{*6},

Makoto Kojio^{*7}, Hiroshi Sugihara^{*8}

*1 Department of Health and Welfare Services Management, Kawasaki University of Medical Welfare,

*2 Department of Healthcare Information Resource Management, Kawasaki Medical School,

*3 Japan Association of Healthcare Management Consultants,

*4 Tohoku Univ. Graduate School of Medicine, Health Policy and Administration,

*5 Department of Healthcare Management, International University of Health and Welfare

*6 Miyazaki Medical Association Hospital,

*7 Medical Corporation Hayashi Hospital

Keywords: data-driven, healthcare management, NDB, SCR,

1. 本セッションの趣旨

医療情報学会においても、データの2次利用、情報活用と言われて久しい。その間、DPC データ、NDB、病床機能報告、介護データベースなど、大量のオープンデータも提供・蓄積されてきた。こうした大量の院内外のデータを活用した「データ駆動型(Data Driven)医療経営」がこれからの病院経営の中心的手法になっていくことは間違いない。今回は、現場で医療経営を担う公益社団法人)日本医業経営コンサルタント協会の情報活用専門委員会との共同企画を計画した。病院経営の現場での実践的かつ具体的な情報活用法を提示しながら、医療情報と医療経営に携わる両者の視点から、データドリブな「医療経営」についての議論を展開したい。各シンポジストには、

藤森研司:NDB から見る SCR データを活用した自院の外部環境分析

石川ベンジャミン光一:人口・患者推計データを活用した外部環境分析

小塩 誠:病院経営における戦略的データ活用法

杉原博司:院内データを用いた地域包括ケア病棟のアウトカム評価

宮原勅治:病院財務諸表オープンデータの予測分析から得られたインサイトの利用

の内容で、病院の外部・内部両方の分析から話題提供をしてもらう予定である。